

エッセイコンテスト3等賞

「フランス語と私」

富田 舞

みなさんはフランス語が好きですか？私はフランス語が大好きです。恥ずかしながら、私は齋藤先生や梨香さん、アテネ・フランセに通う他の学生のように、将来フランス語を使ってこんなことをしたいという最終的な目標を持っていません。尽きない魅力に引き寄せられて、ただただ楽しく好奇心の赴くままに日々フランス語を学んでいます。

私がフランス語を学び始めたのは、ひとりのフランス人と出会い、彼からフランス語の学習をすすめられたのがきっかけでした。自発的な始まりではなかったため、当初の学習に対しての姿勢は積極的とは言えませんでした。しかし、徐々に自分の気持ちに変化がありました。私の好きな人やものはフランスにゆかりのあるものばかりだったのです。エリック・サティの音楽やマリー・ローランサンの絵画、ギョーム・アポリネールのカリグラム、フランスワーズ・サガンの小説…。偶然にも関わらず、自分の居場所を見つけたような安心した気持ちで満たされました。そして、もっと刺激を受けながら学びたいと思い、今年の1月からアテネ・フランセに通っています。

私にとってのフランス語の学習は、語学の習得だけに留まらず、考え方や行動にまで影響を与えるものになっています。たとえば、表情。多くの日本人は無表情か笑顔でいることが多いのに対して、フランス人は非常に多くの表情を浮かべます。困った表情や面倒くさがった表情、嫌悪感のある表情など、負の感情も隠さずに表現しています。私も学んでいるうちに顔の筋肉がほぐれ、「表情が豊かになったね。」と言われるようになりました。また、フランスではお店に入った時に必ず挨拶をします。日本では、残念なことに店員の挨拶だけが響き渡っていることはよくある光景です。挨拶はマナーの基本だと再認識し、どんなお店でも欠かさず挨拶をするようになりました。時には軽い会話が生まれることもあり、挨拶の大切さを改めて痛感しています。さらに、フランスのマルシェに関する記事を読み、将来の食糧事情まで考えて買い物をしている消費者の意識の高さに驚かされ、自身の買い物の仕方を見直すきっかけとなり、農家から直接野菜を購入するようになりました。

そのような変化と同時に、新たな出会いもたくさんあります。今回の齋藤先生の本を拝見することになったのも出会いのひとつです。齋藤先生の人柄と行動力と、フランス語を通じて出会った人々とのみんなです。少しでも世界をよくしていこうという想いのつまった交流記は、それを読んだ他の人を奮い立たせる力を持っています。最初に書いたように、私はどのようにフランス語を活かしていくか目標は持っていませんが、今後も純粋に楽しみながらフランス語を学び、様々な出会いとともにゆっくり使い道を考えていきたいと思っています。いつか私も“心のすれ違い”を防ぐための、交流を潤滑にする存在の一部になれたらと強く感じています。